

目指す学校像	～主役は子ども～「通いたい・通わせたい・働きたい」学校創り
重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び」実現 2 「心の教育」の充実(「いじめ防止」含む) 3 「開かれた学校づくり」の推進 4 「学校の組織力」及び「教職員の指導力」の向上

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>&lt;現状&gt; ○全国学力・学習状況調査では、学力及び質問紙調査ともに、全国・市平均と比べ概ね良好な結果である。「国語が好き」と答える児童の割合は「算数が好き」のそれより高い傾向がある。 ○さいたま市学習状況調査の結果から、基礎学力の定着に課題がみられる。 ○スタディ・サブリの活用度は全学年80%前後であり、デジタル機器の活用は進んでいる。 &lt;課題&gt; ○経験だけでなく、スクールダッシュボード導入によるエビデンスに基づいた効果的な支援を行う必要がある。</p>	<p>・「真の学力」の育成につながる主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・エビデンスに基づく基礎学力の向上の実現に向けた指導法の工夫改善</p>	<p>① 「学びの指標」を踏まえた学習者が主体的に学ぶ授業を実現する。 ② 教育研究所の学力向上カウンセリング研修等の活用及び目的を明確にした計画的な学校課題研究を通して、授業力の向上を図る。</p>	<p>① 「学びの指標」における主体的な学びが3.2以上となったか。 ② 教職員及び保護者アンケートにおける関連項目の肯定的意見の割合が90%以上となったか。</p>	<p>① 「学びの指標」におけるICTの活用が3.2以上となったか。 ② 通知票「B」以上の評価の割合が90%以上となったか。</p>	<p>① ○[主体的]3.2 ② ○教職員関連7項目中6項目90%以上 ○保護者[学力]96%[コミュニケーション力]94% 学力向上カウンセリング研修2回受講 学校課題研修を中心に、組織的に指導力向上に努めた。</p>	A	<p>評価項目については達成したが、基礎学力の定着に課題が見られること、教職員の学びのポイント「じしゃく」に対する意識が若干低いことが課題である。学校課題研修とリンクさせ、両者とも高めていく。</p>
2	<p>&lt;現状&gt; ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、今年度も全国、市平均を上回った。 ○「いじめ見逃し0」をスローガンに、いじめの積極的認知を行っている。令和5年度のいじめ認知件数は31件である。 &lt;課題&gt; ○施設、設備の不具合等を原因とした怪我はないが、体育の授業や休み時間等の怪我は多い。 ○問題発生時、学年主任が複数対応に入ることが多く、負担が大きい。</p>	<p>・「自己肯定感」、「自己指導能力」の向上を目指した生徒指導・教育相談体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた取組の充実</p>	<p>① 情報端末を活用して児童向けアンケートや面談、生徒指導上の対応記録等を蓄積し、児童一人ひとりの学習状況に応じた授業中の支援や家庭学習の課題設定を行う。 ② 指導と評価の一体化を重視した評価テストを選定する(校内統一)</p>	<p>① 教職員アンケートにおける関連項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ② 児童アンケート、保護者アンケートにおける関連項目の肯定的な回答の割合が90%以上になったか。</p>	<p>① ○教職員関連6項目中5項目100%他94% ② ○児童[相談できる先生や友達がいる]90.6% △保護者[一人ひとりの子どもを大切にしたい教育]89.3% ○[長欠(傾向含む)]児童の減少定例会だけでなく、事案に応じて即日に関係者会議を行い、主任を中心に組織的に対応し、見届けまで行う体制をとった。 事案に応じて外部機関と連携した。</p>	A	<p>生徒指導・教育相談体制はよく整い、長欠(傾向含む)児童も減少したが、R6全国学力学習状況調査における児童質問「学校に行くのは楽しいか」88.7%と90%に達していないので、学校が心理的に安心安全な場所になるよう、引き続き対応していく。そして「自分にはよいところがあるか」91%「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」92.5%が引き続き90%以上になるよう、児童が自信をもてるような声掛けをしていく。</p>	
3	<p>&lt;現状&gt; ○コミュニティ・スクール5年目である。学校運営協議会は、昨年度から新しい体制となり、育みたい児童の姿を「他者との関わりを大切にする力」とした。SSNは実質1年目であり、育みたい児童の姿を各団体の視点から目指した。 ○学校だよりや学校HPによる情報発信や学校評価等の情報発信を重視したことで、学校評価「開かれた学校づくり」の項目で、92.8%の肯定的意見をいただいている。 &lt;課題&gt; ○学校運営協議会とSSNとの協働体制を強化し、「他者との関わりを大切にできる力」の育成に向けた学校、家庭、地域の連携体制を強化する。 ○学校運営協議会等へ児童の参加はまだない。</p>	<p>・児童の自律につながる継続的な取組に向けた、学校運営協議会とSSNとの協働体制の強化 ・意図的・計画的な情報発信、受信、フィードバックの実施</p>	<p>① 学校HP内に、新たに学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ② 児童の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るため、具体的な方策を定め、学校とSSNが協働した取組を行う。</p>	<p>① 学校HP内に新たに学校運営協議会及びSSNのページを新設し、年間3回以上更新し、周知した。 ② 教職員及び保護者アンケートにおける、関連項目の肯定的な回答が90%以上となったか。</p>	<p>① ○学校地域連携コーディネーターにより学校運営協議会全3回、SSN会議全2回をHPで報告。学校だよりでも周知した。 ② ○教職員関連3項目100% ○保護者[適切に対応]96% 目指す子ども像を「自分の居場所を作れる子」とし各団体と連携して取り組んだ。第2回学校運営協議会にて、児童会三役から取組の報告をした。</p>	A	<p>児童からの報告は「挨拶(運動)」と「いじめ撲滅」に関する取組であった。学校としては児童の参加を継続し、内容と方法については検討していく。 学校運営協議会では地域・保護者の課題を共有した。学校としてできることを熟考していく。</p>	
4	<p>&lt;現状&gt; ○日課表の見直しを行い、今年度から昼休みを復活させた。 ○一昨年度から放課後の会議・研修の時間が確保され、効果的に運用されている。 &lt;課題&gt; ○「教師が教える授業」から「学習者が主体的に学ぶ授業」への変革が求められる。 ○全教職員のICT活用スキルは高いが、各種アンケートの数値に結びつかない。本年度は、研究委嘱を活用し、ICTの効果的な活用について、研究していく。</p>	<p>・指導力向上を目的とした研修の実施及び「仕事の仕方改革」の推進</p>	<p>① 毎週木曜日の研修の時間を核に、研究委嘱を活用したエビデンスに基づく効果的な指導法を研究し、「学びの指標」を踏まえた学習者が主体的に学ぶ授業を実現する。 ② 一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を2学期末までに1回以上公開する。 ③ 見直しをもった業務遂行の視点から、人事評価面談を通し、一人ひとりの業務改善を促す</p>	<p>① 児童生徒の端末活用状況の向上及び「学びの指標」における項目の数値が向上したか。 ② 教員の人事評価シートにおける関連項目で、80%以上の教員が「b」を達成したか。 ③ 教員の人事評価シートにおける関連項目で、80%以上の教員が「B」を達成したか。</p>	<p>① ○4項目全て1学期より向上した。 ② ○教科指導等「b」以上94.6% ③ ○業務改善「B」以上94.6% 組織力・指導力向上のため、計画的に教職員研修を実施し、経験年数の浅い教職員にはOJTを実施した。教職員アンケート研修関連3項目での肯定的回答は全て90%以上であった。 管理職として人事評価面談や授業参観等を活用して、コーチングマインド及びスキルのもと、指導助言した。</p>	B	<p>「学びの指標」4項目全て向上したが、R5市平均に僅かに及ばず、教職員による個人差及び意識の差があるため、特に年度当初に意識させる。 働き方改革を実施することで児童に還元できることを再確認し、些末なことでも業務改善ができることは何でも実施していく。</p>	

学校運営協議会による評価  
実施日令和7年2月14日  
学校運営協議会からの意見・要望・評価等

・学力をつけるには達成感をもたせることに尽きるのではないかと。達成感をもたせれば自己肯定感が上がり楽しく自ら学んでいく。好きな事を伸ばしたい。  
・非認知能力が大切である。地域によって若干価値観が異なる。その子が幸せか。認めてもらえる価値づけることが大切。  
・教室に掲示されている「めあて」をもたせる、振り返る、そういう日々の活動が学力向上につながるのではないかと。  
・なぜ勉強するのか、1メッセージで伝えていきたい。

・「安心な学校」とは、クラス等で「褒められる」、Solaの一むなど個に応じた指導が適切に受けられる、情報を的確に出すことではないかと。  
・保護者アンケートが90%にいないが学校は児童をよく理解しよくやってくれている。もっと保護者に伝わるとよい。  
・交通安全について、児童はルールを守っていれば守られる、防犯ボランティアがいれば事故にあわない、などと思っている。放課後の自転車の乗り方の危険さをわかっていない児童もいる。映像などを使って視覚に訴え、もっと安全意識を高めてほしい。

・地域の活動、例えばお祭りなどに積極的に児童が参加することで、逆に学力が下がるのではないかと。→好きなことに取り組むことで探究心が芽生える、自己肯定感が高まるなど、遠回りかもしれないが、非認知能力も含めた学力向上につながるのではないかと。  
・保護者として、地域の見守り活動は本当にありがたく、大変感謝している。保護者世代の見守りが増えるとうよい。

・先生方に余裕があるかどうか大切であると考える。  
・企業でも研修はやらなくてもよかった方がよい。ただし基本はできてあとは個々の問題。  
・今年度、小中一貫教育の関係で生徒指導に係る研修を合同で行った。引き続き、テーマをよく考えて合同研修を重ねたい。  
・子どもはよくいる。いいこと、褒められたことなどは家で保護者に伝えることが多い。